

ふれあい東京

第199号 令和5年3月31日発行
公益社団法人 東京のあすを創る協会
〒104-0028
東京都中央区八重洲
二丁目11-7 6階
電話 03(3272)0213



◆子どもを育てる視点 東京のあすを創る協会副会長 西村 弘



「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ」。これはよく知られた言葉です。子どもを育てる視点にも相通じる教訓だと思います。

~~~~~

### やってみせる

「やってみせ」とは範を示すことです。子どもは親や教師の背を見て育つと言われます。子どもは大人の鏡です。今のいじめや非行も子ども特有のものと言うより、みんな大人たちがやっていることではないでしょうか。悪いことをやっても責任をとらない世の中の風潮があります。子どもは世相には敏感です。社会の動きが子ども社会に浸透し、加害者の問題を

追及するより被害者ばかりを取り上げ「いじめられる側にも相応の問題がある」といった責任の所在が一体どこにあるのかあいまいにされていることが多くみられます。

口うるさく注意したり、第三者的に批判をする前に子どもたちの範として恥ずかしくない言動をしているかどうか私達大人が今反省してみる必要はないでしょうか。特に幼児期では理屈はわからなくとも親のすることをそのまま、頭の中にすり込んでいくそうです。私達はそのことを十分自覚して心して子どもの中に入り行動を共にして範を示すことが大事なことはないかと思えます。

### 言ってみせる

「言ってみせる」ことは、生きるための基本を教えることです。私たちは子供の自主性を尊重するという美名を口実に本来しっかりと教えるべきことを教えていないことがありはしないだろうか。生きる力を育てるためには、私たちは学習者である以前に生活者としてとらえる視点が大事です。子どもたちは家庭でも学校でも地域社会でも大人たちと一緒に様々な問題を抱えながら生きている生活者だからです。けじめをつけること、わがまを抑えること、決まりを守ること等ものは是非(やっていたいこと、やってはいけないこと)や適否(すべきこと、すべきでないこと)は世の中で生きていくための基本となるものであり教えずには身につくものではありません。自由と放縦とをはき違えて感情の思うままに任せているから相手を傷つけること、困らせること、迷惑をかけることに気づかない子どもたちが増えているといわれます。このことが「いじめ」にもつながってくるのです。家庭では、基本的な生活習慣(食事、睡眠、排便、衣服の脱着、安全、衛生等)は親としてしっかりと教え込むことが必要です。子どもが自分で判断して行動できるまでは手をかけ援助してやることは決して甘やかしてではなく大人の責任ではないでしょうか。

「言ってみせる」ことの中には叱ることもあります。私たちは叱ることに案外臆病になっていることはないだろうか。荒れている学校の子どもたちがよく口にするのは、「先生よ、もっと強くなってくれ」という言葉だそうです。そのことは「傍観しないでくれ」という子どもたちの悲痛な叫びでもあるのです。信賞必罰の厳しさがなくなれば、いつか社会は退廃し、乱れてくるのではないのでしょうか。

### させてみる

基本的なことを教えたら、子どもの自主性に任せて実際に「させてみる」ことです。その際必要なことは、見放してやることではなく「させて見守る姿勢」が必要です。最近子どもに金を与えるがその後の面倒を見ない親が増えているといわれています。突っ張りの子どもの多くは放任家庭だとも言われています。今こそ子どもを見守る姿勢こそ大事にしなければならないと思います。子どもの自信は、具体的に自分が体験する活動の過程でついてくるものです。その活動範囲が多様であれば発揮する力もまた多様になるのだと思います。今学校で子どもたちの良さを育むことが重視され体験学習の必要性が叫ばれているのもうなづけるところです。子どもたちのこうした自主的な活動を温かい目に関心を持って見守っていく姿勢こそ今親、教師、地域社会の大人たちに求められていることだろうと思います。

### 褒める

人間は、誰でも認めてもらいたい、関心を持ってもらいたい、褒めてもらいたいという気持ちを持っているものです。

褒められれば満足感、充実感を味わい自信につながり、またやろうという気持ちがおこってくるものです。まさに褒めることは人間の能力を引き出す妙薬といわれております。しかし、褒めることは同時に叱ることとの兼ね合いを考慮することが大事ではないでしょうか。どちらも内容次第では子どもにとって力にもなり害にもなるからです。

物質文明の繁栄に比しあまりにも心貧しいこと出来事が世の中にあふれていることから、今日心の教育の必要性が叫ばれております。子どもの言動が他者の心の成長を害するものであったり脅かすものであれば、毅然とした態度で叱らなければならないでしょう。特に他者の心の成長を促す言動に対しては大いに褒めてやるのが大事です。私たちは子どもたちの言動に対して細心の注意を払って見守りどんな小さなことでも声掛けをしていく必要があるのだらうと思います。そのことが子どもたちの存在感を認めてあげることになるからです。子どもたちが自分の心の居場所を見つけられるよう私たちは常に子どもたちに対応していかなければならないと思います。

~~~~~  
これ等の継続が耐性を育て、自己理解に導き客観的に自分の立場を考えることができる、つまり子どもの「生きる力」を育むことにつながってくるものだと思います。

◇令和5年度 事業計画・予算について 承認されました令和5年度の事業計画、予算の概要です。

1 事業計画～運動推進について

3年にわたり続いたコロナ禍により、これまで事業の多くを中止せざるを得ませんでした。感染も下火になってきた令和5年度においては、できる限りコロナ前同様の事業の展開を図りたいと考えています。令和5年度は、次の項目に重点を置き運動を推進します。

- (1) 安全な・活力あるまちづくり、子育て環境の整備、高齢者の医療・福祉や健康づくり、自然環境の保全・学習、省資源・省エネルギー・資源再利用、食の安全確保など多岐にわたる課題に取り組んでいる団体に対して新たな支援を行う。
- (2) 特に、東京のあすを担う子どもたちへの様々な取り組みに対して、積極的な支援を行う。

- (3) 東京都内全区市町村との連携を図り事業を推進する。

2 予算 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで(単位:円)

項目	予算額
経常収益	27,959,000
財産運用益・会費等	293,000
東京都補助金等	27,666,000
経常費用	27,878,000
事業費	25,152,200
管理費	2,725,800
当期経常増減額	81,000
一般正味財産期末残高	15,174,537

◇活動紹介 令和4年9月以降に行われた、様々な団体の活動を紹介します。

○東京のまちづくり運動の輪を広げる集い 10月20日(木) 東村山市民市民ステーション・サンパルネ



サンパルネでの講演会

「東京のまちづくり運動の輪を広げる集い」が、新型コロナへの万全な感染対策を実施の上、開催されました。東京都生活会議連絡協議会西村弘会長及び東京のあすを創る協会藤本龍夫事務局長からあいさつがあり、その後、講演会に移りました。講演者は、元駐チリ特命全権大使等を歴任し、現在は、大王製紙の社外取締役を務めている、平石好伸さんです。平石さんは、萩本悦久さん(立川市:玉川上水の自然保護を考える会代表者)の小学校教員時代の教え子です。講演のテーマは、「イラクのまちづくりへの支援」～日本外交の最前線に身を

置いて～です。イラク戦争(2003年3月～2011年12月)等によって疲弊したイラクの国家再建を支援するため、同国ムサンナー県サマーワ市に、陸上自衛隊宿営地とともに、「外務省サマーワ連絡事務所」が設置(2004年1月)されました。平石さんは、同事務所長としての約1か月間(2004年7月30日～同年8月31日)、地元有力者との関係の構築、現地の治安や政治状況の把握、ODA(政府開発援助)による支援の実施などに当たられました。現地の厳しい勤務環境や治安状況などについて、約2時間、お話をいただきました。32名参加。

○東京都生活学校連絡協議会学習会 地球温暖化ストップ・次世代のために 令和4年10月21日(金)



第1回学習会(東創協事務所)

東京都生活学校連絡協議会では、今年度、温暖化の問題を取り上げることとし、まずは、温暖化の実態を知り、その阻止のための様々な取組みを理解し、その上で自分たちでできる取組みについて考えていこうと学習会が開かれました。第1回目の学習会は10月21日に東創協の事務所で行われ、各生活学校のリーダーを中心に11名が集まりました。地球温暖化の実態について、事務局が作った資料に基づき、①なぜ温暖化を考えるのか [課題]、②本当に温暖化しているのか [現状]、③どうして温暖化するのか [分析]、④温暖化するとどうなるのか [予測]、と順に参加者の感想、意見を聞きながら進められました。温暖化により花の開花時期と虫が動き回る時期とがズレてきている／実際に熱中症に罹ったことがある／春と秋が短くなって従来の季節感ではなくなった／北海道がびっくりするような暑さになっている、等々。このような肌感覚の温暖化の実感とともに、北極・南極やグリーンランド、シベリヤなどの極地で現に起きている海水や氷床、凍土などの融解の様子を写真資料で、あらためて再確認しました。次回の学習会では、温暖化対策の実際を学び、一人ひとりができる対策を考えて行くという。

○みんなで実演！ヒッポおはなしフェスティバル 令和4年11月27日(日) 大田区・Luz大森



＜読み聞かせネットワークヒッポ＞が、年一回開催している「みんなで実演！ヒッポおはなしフェスティバル」が大田区のLuz大森で開催されました。当日のプログラムは、①みんなで実演！『スキルアップ連続講座おはなし会で使える工作Part1・2』ご参加の皆さん、②絵本の読み聞かせ・絵本の紹介(種村由美子さん)、③パネルシアター(読み聞かせグループ本の花束)、④素話(高橋公美さん)、⑤カバさんの紙芝居(千葉晶さん)と盛りだくさん。会場には、子どもたちが靴を脱いで座れるマット

も敷かれてあるなど親子でくつろいだ雰囲気なるように工夫されていました。まず、昨年開催された「読み聞かせボランティア スキルアップ連続講座」で受講生が作った指人形などを使った実演で盛り上がり、多様な絵本の紹介で興味の世界を広げてくれ、フェルトで作られた人物などをパネルに自由に登場させお話しの世界に引き込むパネルシアター、更には絵本を使わずお話だけで想像の世界に誘ってくれる素話、最後はテンポあふれる伝統的な読み聞かせの紙芝居で終了でした。

○朴の会 講演会、ごえんなミニこんさあと 令和4年12月3日(土) 青山パソナスクエア



小児がんの子どもたちやその家族への応援団く朴の会＞が、松本公一先生(国立成育医療研究センター小児がんセンター長)の小児がん治療の現状の講演、若手声楽家によるミニコンサートを開催しました。講演では、免疫療法や分子標的薬などの新しい治療により小児がんも治る時代に入ったが、一方では治った後も「晩期合併症」により苦しむ人が少なからずいるという話がありました。「ミニこんさあと」では、ピアノとチェロによる絶妙な伴奏に乗り、モーツァルトからサイモン＆ガーファンクルまで、見事な歌声を聴かせて

いただきました。音楽には、心を和ませ、生きる喜びを高めてくれる力があります。早く、子どもたちに生演奏が届けられたらと思いました。

○立川お手玉の会 SDGs 学習会 令和4年12月8日(木) 立川市幸学習館



立川市には「いきいきたちかわ出前講座」という市民の自主的な学習会などに市職員を派遣する制度があります。〈立川お手玉の会〉はその制度を使い、身近な環境問題について2日連続で学習会を開催しました。そのうち「ごみをつくらないライフスタイルに転換しよう！～身近な暮らしの2R(発生抑制・再利用)」と題した学習会を見学しました。立川市は驚くほど徹底した分別収集を実施していますが、その分別方法について熱心な質問が出るなど、市民の環境問題に対する意識の高さに支えられて実施できているのだなと感じられました。会場には、お手玉の脱プラ化やみつろうラップも展示されていました。

○たねまきびと清瀬 会員例会 令和4年12月10日(土) 清瀬市アムューホール



〈たねまきびと清瀬〉は、平成29年の設立以来、清瀬に笑顔のたねをまき、音楽・教育・文化活動でまちを元気に！を合言葉に活動してきました。今回は第7回会員の集いとして「ジャズ・ゴスペル・クリスマス・コンサート」を開催するということで、参加させていただきました。出演はジャズピアニストの入江新一郎さん、ボーカリストの入江真奈さん。クリスマス・ソングを中心にコロナ禍の中、なかなか聴くことができなかった生の澁刺とした音楽を奏でられると、来場者一同一瞬にして夢見心地でウットリ。音楽の力はやはり素晴らしい。これまで、コロナ禍の中で制限されてきましたが、今後はこういった生の演奏に自由に接したり、様々な活動が活発にできるようになることを願うばかりです。

○北区しめ縄生活学校 令和4年12月20日(火) 北区立王子小学校



一般社団法人国際教養振興協会が実施している「しめ縄プロジェクト」の活動の一つとして、総合的な学習の一環として実施されたもので、当日は王子小学校5年生109人が参加した。最初に、正月の意味や正月飾りの役割などの分かりやすい説明を受け、北区しめ縄生活学校のメンバー、保護者ボランティアのサポートにより、実際にしめ縄づくりを体験するというスケジュール。縄を緇(な)う作業は、右手や左手でねじったり、上に重ねたりと苦戦しながらも、手助けを受けてコツを掴み次第に上手に緇えるようになるのは、さすがのみ込みの早い子どもたちならではの。この体験学習は、王子小学校では4回目で、北区内では他に3校で実施しています。

○東京都生活学校連絡協議会学習会 令和5年3月17日(金) 東京都消費生活総合センター



昨年10月の第1回目の学習会後、コロナ感染症第8波の影響で延び延びになっていた第2回目の「地球温暖化ストップ」学習会が、3月17日に開催されました。各生活学校のリーダーを中心に14名が集まり、前回同様に事務局が作った資料に基づき今回は対策編として、①世界の温暖化対策、②日本の温暖化対策、③東京の温暖化対策、そして④個人でできる10の行動、の項目に分け進められました。最後は「**いますぐ動こう、気温上昇を止めるために 個人でできる10の行動**」にある

I 家庭で節電する、II 徒歩や自転車で移動する、または公共交通機関を利用する、III 野菜をもっと多く食べる、IV 長距離の移動手段を考える、V 廃棄食品を減らす、VI リデュース、リユース、リペア、リサイ

クル、VII 家庭のエネルギー源をかえる、VIII 電気自動車にのりかえる、IX 環境に配慮した製品を選ぶ、X 声を上げる、の実践を約して学習会を終了しました。

▽ひとこと 新型コロナウイルスの感染が下火になってきて、社会生活も徐々に元に戻ってきています。昨夏の甲子園大会で優勝した宮城の仙台育英高校監督は、インタビューで「青春は密」という表現をしましたが、このコロナ禍で様々な制約を受けてきた子供たちは、考える以上に大きなダメージを受けたのは間違いありません。巻頭、副会長が「子どもを育てる視点」で「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ」を取り上げましたが、前提に子どもたちに寄り添うあたたかなまなざしが今だからこそ必要なのは論を待ちません。(竜)